

## ■ 公営企業部

### Ⅱ 環境にやさしく、安心して健やかに暮らせるまちづくり

#### § 10 快適で暮らしやすい生活環境づくり

○ 第1次拡張事業	【御坂境川浄水場関連送配水管整備事業】	No.10-24
○ 水道建設事業	【配水管布設・布設替、水道施設設備更新事業】	No.10-25
○ 上下水道総務事業	【上下水道事業の安定的運営】	No.10-26
○ 簡易水道事業・農業集落排水事業	【芦川地区等住民の快適な暮らしのために】	No.10-27
○ 使用料等徴収事業	【上下水道等料金の徴収業務委託】	No.10-28
○ 公共下水道整備事業	【下水道未普及地域への新設】	No.10-29
○ 公共下水道維持管理事業	【下水道施設の効率的で最適な管理】	No.10-30
○ 農業集落排水事業	【芦川地区の排水施設維持管理】	No.10-31

事務事業名	10-24 第1次拡張事業					部局名	公営企業部	所属課	水道課
施策名	10	快適でくらしやすい生活環境づくり				担当名	工務担当	課長名	渡辺一彦
法令根拠	水道法、笛吹市水道事業給水条例					個別計画	笛吹市水道事業基本計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H21年度～H31年度)	
	上水	01	01	02					

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

◇事務事業の概要と実績

水道水を安定して供給するため、笛吹畑かんを水源とする浄水施設や関連する配水施設等を整備し、地区間の連絡管を整備する。  
設計業務委託1件  
舗装本復旧工事A=4557㎡  
御坂配水場から一宮町市之蔵配水場への送水管布設工事 L=546m  
境川浄水場送水管布設工事L=361m  
配水管布設工事 L=809m

◇主な事業費(単位:千円)

工事費 10,000  
委託料 211,000

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	351,304	349,088	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	714,300	682,300	117,200	70,300
		その他	千円	714,300	632,350	117,200	70,300
		一般財源	千円	19,318	93,515	32,248	2,188
	事業費計 (A)		千円	1,799,222	1,757,253	266,648	142,788
人件費	正規職員延従事人数	人	4.00	4.00	3.00	3.00	
	人件費計 (B)	千円	26,540	27,440	20,580	20,895	
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,825,762	1,784,693	287,228	163,683	
補助事業等		水道水源開発等施設整備費					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

送・配水管の整備を計画的に実施していて、今年度は御坂浄水場から一宮町市之蔵配水場への送水管整備を行っているが、途中で3箇所の一級河川を縦横断することから河川協議が必要となり協議が予定より長引いたため一部は繰越工事となった。この工事が完了すると一宮地区への安定的な水の供給が可能となり浄水能力の有効活用に繋がる。また、境川浄水場関連でも送配水管工事が進んでおり、砂原橋関連の工事が進めば石和町砂原配水地までの送水が可能となり安定供給が図られる。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

河川協議、関連工事等により送配水工事が一部遅延しているが、少しでも早い完了を目指し安定供給に努めていく。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標・新規計画の浄水量12,460㎥/日に対し、浄水量11,150㎥/日、上水道普及率97%

○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった

境川浄水場、御坂浄水場について順調に稼動していて計画目標の浄水量11,150㎥/日となっている。また、上水道普及率97%となっている。

事務事業名	10-25 水道建設事業					部局名	公営企業部	所属課	水道課
施策名	10	快適でくらしやすい生活環境づくり				担当名	工務担当	課長名	渡辺一彦
法令根拠	水道法、笛吹市水道事業給水条例					個別計画	笛吹市水道事業基本計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	上水道	01	01	01					

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 水道事業のうち配水管等の整備を行う事業。上水道計画区域内に新たに配水管を整備すると共に老朽化した配水管の布設替を行っている。また、老朽化した水道施設の更新を行っている。 下水道工事、水路改修工事等に併せた配水管等の新規布設及び布設替工事 L=1,296m 老朽化した水道配水管の布設替工事 L=1,941m 老朽水道施設、設備の更新35件	◇主な事業費(単位:千円) 工事費 396,613 委託料 42,000

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	283,400	266,200	260,100	209,700	101,900
		その他	千円	80,066	138,595	106,678	74,445	120,438
		一般財源	千円	46,194	134,579	134,406	140,839	216,275
	事業費計 (A)	千円	409,660	539,374	501,184	424,984	438,613	
	人件費	正規職員延従事人数	人	3.50	3.50	4.00	4.00	4.00
	人件費計 (B)	千円	23,223	24,010	27,440	27,860	27,860	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	432,883	563,384	528,624	452,844	466,473	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

安全で安心な水道水を安定的に供給するため配水管の新規布設や老朽管の布設替工事を行っている。また、地震等の自然災害に対応するため水道管の耐震化を進めており新規の布設や布設替管路については耐震性のある管を用いることで耐震化率の向上に努めている。給水人口の減少や水道施設の更新時期を迎え修繕費等の支出が増加し財政が厳しいため、計画的で効率的な水道施設の更新に努めている。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

配水管の老朽化が進み、効率的な布設替工事を実施し水道施設の維持管理に努め、安全で安心な水道水の安定した供給をしていく。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 漏水発生件数115件、上水道普及率97%

○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった

今年度の漏水発生件数は約115件で給水管からの小規模な漏水案件や配水本管からの大規模な漏水案件もあったが、いずれも早期発見、早期修繕に努め市民生活に影響が出ないよう対応した。水道普及率は97%となっている。

事務事業名	10-26 上下水道総務事業					部局名	公営企業部	所属課	業務課
施策名	10	快適でくらしやすい生活環境づくり				担当名	総務担当	課長名	早川 義彦
法令根拠	地方公営企業法・地方公営企業法施行例・地方公営企業法施行規則					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	上水道	01	01	04					

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
<p>◇事務事業の概要と実績</p> <p>◇水道水の安定供給と下水道施設が安心して利用できるようサービスの合理化を図り、安定した運営を推進するための総務事務全般。</p> <p>◇平成28年度までは、上水道事業のみでしたが、平成29年度より水道事業、公共下水道事業合わせての総務事務としてシートを作成しました。</p>	<p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>○委託料 17,965 ○通信運搬費 4,309 ○印刷製本費 3,363</p>

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	57,355	47,010	70,028	74,098	52,511
	事業費計 (A)	千円	57,355	47,010	70,028	74,098	52,511	
	人件費	正規職員延従事人数	人	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00
	人件費計 (B)	千円	46,445	48,020	48,020	48,755	48,755	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	103,800	95,030	118,048	122,853	101,266	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
<p><b>1次評価者【課長・局長】</b></p> <p>◇日々の会計処理は適切に行なっていますが、当期純利益がマイナスで推移しており、安定した経営を目指すには、料金改定が必要な状況です。上下水道事業審議会における協議、答申を受け、議会、住民への説明を行ってきました。その結果、平成30年4月より、上水24.7%、下水20%の料金改定が決定され、長年続いている赤字減少へ向けて成果が得られました。</p>	<p><b>2次評価者【部長・消防長・支所長】</b></p> <p>長年の懸案であった赤字解消に向け、平成30年4月から料金改定をおこない解消とまではいかないが減少できる見込みとなり、成果が得られました。これからも、安心、安全で安定したサービスを継続していきます。</p>
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 水道料金24.7%改定、下水道使用料20%改定を決定する。	
<input checked="" type="radio"/> 目標どおり達成できた <input type="radio"/> おおむね達成できた <input type="radio"/> 達成できなかった	
今年度、上下水道事業審議会における協議、答申を受け、議会、住民への説明を行ってきました。その結果、平成30年4月より、水道料金24.7%、下水道使用料20%の改定が決定されました。	

事務事業名	10-27 簡易水道事業・農業集落排水事業					部局名	公営企業部	所属課	業務課
施策名	10	快適でくらしやすい生活環境づくり				担当名	料金担当	課長名	早川 義彦
法令根拠	簡易水道事業給水条例、農業集落排水施設条例					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	簡水、農集	01	01	01					

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
<p>◇事務事業の概要と実績</p> <p>◇簡易水道事業、農業集落排水事業について、サービス供給の合理化を図り、安定した運営を推進するための総務事務全般。</p> <p>◇平成28年度までは、簡易水道事業のみでしたが、平成29年度より同じ芦川地区を対象とする農業集落排水事業と合わせての総務事務としてシートを作成しました。</p>	<p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>需用費、役務費</p>

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	232	282	353	197	257
	事業費計 (A)	千円	232	282	353	197	257	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
	人件費計 (B)	千円	1,327	1,372	1,372	1,393	1,393	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,559	1,654	1,725	1,590	1,650	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
<p><b>1次評価者【課長・局長】</b></p> <p>◇上下水道と同様、会計処理は適切に行なっていますが、当期純利益がマイナスで推移しており、安定した経営を目指すには、料金改定による財源確保が必要な状況です。上下水道事業審議会における協議、答申を受け、議会、住民への説明を行ってきました。その結果、平成30年4月より、簡易水道24.7%、農業集落排水20%の料金改定が決定され、長年続いている赤字減少へ向けて成果が得られました。</p>	<p><b>2次評価者【部長・消防長・支所長】</b></p> <p>上下水道料金改定に合わせ、簡易水道、農業集落排水についても同率で改定することになり一定の成果が得られました。今後は、維持費と使用料の料金格差について、手法を含めて協議していく必要があります。</p>
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 簡易水道料金24.7%改定、農業集落排水使用料20%改定を決定する。	
<p>● 目標どおり達成できた    ○ おおむね達成できた    ○ 達成できなかった</p> <p>今年度、上下水道事業審議会における協議、答申を受け、議会、住民への説明を行ってきました。その結果、平成30年4月より、簡易水道料金24.7%、農業集落排水使用料20%の改定が決定されました。</p>	

事務事業名	10-28 使用料等徴収事業				部局名	公営企業部	所属課	業務課
施策名	10 快適でくらしやすい生活環境づくり				担当名	料金担当	課長名	早川 義彦
法令根拠	水道事業給水条例・公共下水道使用料等徴収条例 ・春日居地区温泉給湯使用料等徴収条例				個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)
	上水道	1	1	4				

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

◇事務事業の概要と実績

◇条例に基づき使用者から使用料を徴収しています。効率化と経費削減を図るため、平成29年4月より、民間事業者への徴収業務委託を行っています。

◇平成28年度までは、職員により対応していました。事業費は平成29年度の民間委託に伴い、水道事業、公共下水道事業、温泉事業、簡水事業、農集事業の全ての使用料徴収事業のものとなっています。

◇主な事業費(単位:千円)

○委託料 61,431

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	23,346
	一般財源	千円	33,931	36,018	31,000	31,947	38,085
	事業費計 (A)	千円	33,931	36,018	31,000	31,947	61,431
人件費	正規職員延従事人数	人	6.00	6.00	6.00	6.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	39,810	41,160	41,160	41,790	6,965
トータルコスト(A)+(B)		千円	73,741	77,178	72,160	73,737	68,396
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

◇事務の効率化と経費削減を図るため、平成29年度より民間事業者へ業務委託となり、「笛吹市上下水道料金センター」が設置されました。また、長年の懸案事項であった料金改定についても、上下水道審議会での審議、答申を経て、議会説明、住民説明を行い、平成30年4月の改定が決定されました。  
今後、これまで以上に収納率向上に向けて、滞納者への通知の送付、臨戸訪問を行い納付を促して行きます。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

平成29年度からの料金担当の民間業者への委託業務をはじめ、平成30年4月からの料金改定が決まり一定の成果が得られました。これからは、今まで以上に、収納率の向上、下水道への加入に力を入れ業務を遂行していく。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 水道料金、下水道使用料とも、現年度収納率を95%以上とする。

○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった

平成29年度より民間事業者へ業務委託となり、これまで以上に、滞納者への通知の送付、臨戸訪問を行い収納率向上に向けて取り組みました。

事務事業名	10-29 公共下水道整備事業					部局名	公営企業部	所属課	下水道課
施策名	10	快適で暮らしやすい生活環境づくり				担当名	施設担当	課長名	鈴木 寿明
法令根拠	下水道法					個別計画	「流域別下水道整備総合計画」「峡東流域下水道計画」		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	下水道	01	01						

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ・峡東流域下水道関連笛吹市公共下水道事業に基づき、昭和52年に基本計画が策定され現在全体計画3,299.2ha事業認可2,512.8haの中2,040.1haが整備済となっている。	◇主な事業費(単位:千円) ・工事請負費 214,664 ・委託費 51,000 ・補償費 71,762 ・施工延長 L=1,525m ・施工面積 A=6.91ha

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	163,207	74,427	86,208	72,100	75,000
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	328,300	360,100	320,400	227,700	264,400	
		その他	千円	171,419	90,968	81,052	44,957	67,512	
		一般財源	千円	0	0	0	0	0	
	事業費計 (A)	千円	662,926	525,495	487,660	344,757	406,912		
	人件費	正規職員延従事人数	人	5.50	4.10	4.10	4.10	4.10	
	人件費計 (B)	千円	36,493	28,126	28,126	28,557	28,557		
トータルコスト(A)+(B)		千円	699,419	553,621	515,786	373,314	435,469		
補助事業等									

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 県の「流域別下水道整備総合計画」及び「峡東流域下水道計画」に基づき「笛吹市公共下水道基本計画」を策定し、目標年次平成32年2,512.8haに向け整備を進めているが、現在は起債の償還に重点を置き整備をしており進捗率が伸びやんでいる状況だが順次整備を進めていく。	2次評価者【部長・消防長・支所長】 目標年次を平成32年度として計画し事業を進めてきたが、起債を抑え償還額の増加を防ぐため事業費の削減を余儀なくされたことによる整備計画より遅れているが、全体計画を見直しながら整備を進めて行かなければならない。
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 下水道普及率60.6% ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった 整備エリアを再度検討し住宅密集地を勧めて施工していく。	

事務事業名	10-30 公共下水道維持管理事業					部局名	公営企業部	所属課	下水道課
施策名	10	快適でくらしやすい生活環境づくり				担当名	施設担当	課長名	鈴木 寿明
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	下水道	01	01						

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

◇事務事業の概要と実績

・公共下水道汚水管施設(管渠・柵・ポンプ等)の維持管理事業。  
埋設管路延長約L=391kmマンホールポンプ104基において、供用開始後30年が経過し施設の老朽化が進んでいて管路、ポンプの詰りなどが発生しており早急な復旧対応を行いながら、計画的にカメラ調査及び管路清掃を随時行う。

◇主な事業費(単位:千円)

・マンホールポンプ管理委託料 9,180  
・マンホールポンプ修繕費 13,000  
・マンホールポンプ非常通報装置電話料 3,264

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	456,486	509,037	547,430	485,118	476,077
	事業費計 (A)	千円	456,486	509,037	547,430	485,118	476,077
人件費	正規職員延従事人数	人	1.40	2.00	2.00	2.00	2.00
	人件費計 (B)	千円	9,289	13,720	13,720	13,930	13,930
トータルコスト(A)+(B)		千円	465,775	522,757	561,150	499,048	490,007
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

・下水道の管渠・マンホールポンプ等においては耐用年数を把握しながら永久的に維持管理を行っていかねばならず、今後インフラ整備は重点的な課題だと思ふマンホールポンプにおいては緊急対応を除き計画的な入れ替え作業が行う事により事故及び故障を事前に防ぎ安全安心快適な環境整備に努める。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

安心安全で快適な環境整備を第一として、維持管理について効率が良く効果の上がるよう計画的に整備して行かなければならない。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 事故及び故障箇所において、早急対応により市民生活に不便をこうむらなかつた。

● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった

・50件以上の故障、緊急対応があり緊急工事指示書によるマンホールポンプ引き上げ、油による管路の詰まりなどにおいて管路清掃業者による速やかな現場対応により対処できた。

事務事業名	10-31 農業集落排水事業					部局名	公営企業部	所属課	下水道課
施策名	10	快適でくらしやすい生活環境づくり				担当名	管理担当	課長名	鈴木寿明
法令根拠	笛吹市農業集落排水施設条例及び笛吹市農業集落排水施設条例施行規則					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	22	02	01	01					

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ・芦川町農業集落排水事業においては、平成10年供用開始以来3処理場・管路延長L=13km・マンホールポンプ23箇所が日々可動しており老朽化も進んでいる、又故障も頻繁に発生しているのが現状で今後維持管理を行いながら定期的に施設の修理交換を行っていく。	◇主な事業費(単位:千円) ・施設維持管理費 13,531

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	10,222	3,425	5,043	8,575	7,900
		一般財源	千円	8,550	8,116	8,445	8,102	7,602
	事業費計 (A)	千円	18,772	11,541	13,488	16,677	15,502	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
	人件費計 (B)	千円	1,991	2,058	2,058	2,090	2,090	
トータルコスト(A)+(B)		千円	20,763	13,599	15,546	18,767	17,592	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 ・上芦川、中芦川、鶯宿3処理場、管路・マンホールポンプ・真空ポンプにおいて標準耐用年数が超えており、経年劣化が進んでいる状況であります。芦川地区全世帯の汚水処理をおこなっている施設のため停止することが出来ず、維持管理を行いながら計画的にマンホールポンプを交換し長寿命化対策(ストックマネジメント)を策定し今後進めて行く。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 長寿命化対策を策定して行くなかで、効率的な維持管理方法を見出して行かなければならない。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 故障・異常に対し敏速な処理対応を行った。 ● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった ・緊急対応が9回ほど発生したが敏速に対応し市民生活に影響は出なかった。	